

「私たちのちかい」を通して

ご門主が2016年の伝灯奉告法要初日に、私たち念仏者が現実世界でどのように生きていくべきかを示された「念仏者の生き方」。その肝要を2018年に4カ条にまとめられたのが、「私たちのちかい」です（別掲）。そこで「私たちのちかい」に親しんでもらうため、1番目の「自分の殻に閉じこもることなく 穏やかな顔と優しい言葉を大切にします 微笑み語りかける仏さまのように」の味わいを、本願寺派総合研究所の藤丸智雄副所長に執筆してもらいました。

声かけが結んだ

微笑みのご縁

一、自分の殻に閉じこもることなく
 穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
 微笑み語りかける仏さまのように

先日、葬儀会館にお通夜へ行くこと、帰りがけに初めて見る係の方が追ってこられ、「先代はお元気でいらっしゃいますか」と声をかけてくださった。先代である父は85歳になる。お参りに出るのが生きがいで、まだまだ元気に、現役でお参りに出ている。そのことをお知らせすると、「実は、小学校へ登校する時、ほうきを持った先代が、毎朝のようについに声をかけてくださったんです。今でもよく覚えています。お元気なんですね」と笑顔でおっしゃった。20歳過ぎくらいに見えるので、小学校に通っていたのは10数年前のことと思われる。よく覚えていてくださったものだ。
 心当たりがある。「僧侶は、お寺の中に引っ込んでばかりではよくない。お寺の外へ出

私たちのちかい

- 一、自分の殻に閉じこもることなく
 穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
 微笑み語りかける仏さまのように
- 一、むさぼり、いかり、おろかさには流されず
 しなやかな心と振る舞いを心がけます
 心安らかな仏さまのように
- 一、自分だけを大事にすることなく
 人と喜びや悲しみを分かち合います
 慈悲に満ちみちた仏さまのように
- 一、生かされていることに気づき
 日々を精一杯つとめます
 人びとの救いに尽くす仏さまのように

仏さまの思い・願いから発露してくる笑顔を大切に

よう」と言っていて、ほんのメール程度ではあったのだが、朝、まさしく登校の時刻頃に門の前に出て、掃除をしていた時があったのである。うちの寺の前は、私の母校である小学校や幼稚園、近所の中学・高校の通学路になっている。ちっちゃい園児から立派な体格の生徒まで、たくさん子どもたちが次々と通過していく。父は、そんな中で、子どもたちとも顔なじみになったのだろう。挨拶を交わしてもいたのだろう。

それが10数年もの時間を経て、父に戻ってきた。私は寺へ帰ると、父にそのことを報告した。言うまでもなく、父はどてもうれしそうであった。もちろん、感謝を期待して寺の外でほうきを持って掃除をしていたわけではない。むしろ期待していなかったことだからこそ、思ってもみなかった声がかえってきたことがうれしかったのだらうと思う。「そんなこともあったのか」と繰り返しては、微笑んでいた。

私は、ご縁の世界を垣間見せられたように感じた。ほんの小さな営みが、時間を経て、何かを生む――。まさしく仏教の説く縁起の世界そのものだなぁと感慨深く思った。10年以上前のご縁を覚えていてくれて、それを話してくれた新入社員さんに、仏教の教えの肝心なところを伝えていただいたように、感謝の思いを感じたし、声をわざとわさかけてくれたことに親しみを感した。今度、会場で会ったら、こちらからお声がけしようと思った。

仏さまからつながる

穏やかな顔と優しい言葉

こうした経験をするとき、「私たちのちかい」の「穏やかな顔と優しい言葉を大切にします」という部分、本当に大切に感じられる。穏やかな顔も優しい言葉も、何か見返りを求めずするものではないだろう。

この前、小学校に通う甥っ子3人から「おじちゃんの良いは、わざとらしく」「そうだ、そうだ」と批判された。僧侶を長くしていると、体面を取り繕うように笑う癖がついてしまっている。わざとらしく笑って「おじちゃん、自覚がないわけじゃない。なるべく自然にと思っはいるのだが、目だけ笑っていないかったり、大きな身振りや大きな笑い声になったりしまいがちなのだ。そもそも、仏さまの

笑みが、大きな身振りになっているなどと仏典に説かれていないし、そんな仏像を見たこともない。「私たちのちかい」でいう「穏やかな顔と優しい言葉」というのは、私の勝手な解釈であるが、そういうものではないだろう。よく思われたいといった気持ちの笑顔ではないのだろう。

「殻」と聞くと、(昆虫好きのせいだが)セミを思い出す。とくにセミの羽化は、私にはなんとも美しく神秘的に感じられる。ただセミの羽化は、時々失敗してしまう。飛び立つ前に命を失ってしまった姿を見かけた方も多いのではないかと。それくらい、外の世界へ出るというのは危険なことなのだ。夏になると、セミの幼虫が闇雲に地中から出てきていると勘違いされている方もいるのでは？ 実は彼ら、なかなか慎重である。気温が高く、雨の降っていない、日差しが有りそうな日に出てくる。雨が止んだ朝も多く出てくる。地面が柔らかくなっているからだ。

人間も、同じではないか。殻から出られたとしたら、殻から出られる条件が幸いにも整っていたからだろう。一方で、なかなか殻から出にくいこともある。なぜなら、失敗することもあるのだから。殻から出にくい時は、どうしようもない場合もあるので、それはそれで良いのと思う。むしろ、そういう方がいないかと周りの人々に気をかけることが大切だろう。

そのように味わわせていただく「微笑み語りかける仏さまのように」がいっそう有り難く感じられる。私の父の話を例にするのはいかかかと思うが、10年の時を経て、思いがつながっていった。気をかけて「穏やかな顔と優しい言葉を連ねてくれた人がいたから、いま「穏やかな顔と優しい言葉」が発露したのではないだろうか。そういうことは、10年前にも、20年前にも、生まれたばかりの時にも、有ったように思われる。そう思うと懐かしい方々の顔が思い浮かび、目頭が熱くもなる。

「や、それと」ではないのかも知れない。はるか「微笑み語りかける仏さま」から、今の「穏やかな顔と優しい言葉」はつながってきているのではないだろうか。仏さまの思い・願いから発露してくる笑顔を大切にしたいと思う。



おとも 藤丸 智雄

本願寺派総合研究所副所長